

平成30年1月 年頭の挨拶
大学スポーツの発展に向けて

鹿屋体育大学長 松下雅雄

新年明けましておめでとうございます。
旧年中は鹿屋体育大学を応援、ご支援いただき誠にありがとうございました。

平成30年は千支の十一番目である戌年になります。戌年は犬の親しみやすい性格やお産が軽いことから、おめでたい意味を持ち、また、前向きに地道な努力を重ねることにより、成長する年になるそうです。この平成30年に、国策として大学スポーツの振興をつかさどる組織、日本版NCAAが設立される予定です。NCAAとは全米の大学横断的かつ競技横断的総括組織で、日本の大学には現在このような組織はありません。

自民党スポーツ立国調査委員会の「大学スポーツの発展に向け、大学スポーツの潜在力の活性化とそのため課題整理が必要」の提言をうけ、平成28年4月に文部科学大臣、スポーツ庁長官、スポーツ系大学協議会会長、全国大学体育連合会長らを委員とする「大学スポーツの振興に関する検討会議」が発足しました。

その会議で、大学スポーツを振興することとは、国民の健康や地域の活性化等に資する可能性を持つこと、そして、大学はそのための人材資源（アスリートや指導者）、施設などの資源を持つことが確認され、具体的な事業に取り組むには、NCAAのような組織を設置することが必要であるとの結論になりました。

また、現在の大学スポーツにおいては、運動部活動と学業の両立、スポーツ事故・

事件への対応、運営責任体制、会計制度などマネジメント体制の確立が課題である、と会議では指摘しています。

それらを受け、平成29年9月から日本版NCAA創設に向けたスポーツ庁の学産官連携協議会において、「学業充実」、「安全・安心」そして「マネジメント」の3つのワーキングによって検討が進められ、平成30年度中に日本版NCAAが設立される運びとなりました。

一方、スポーツ庁は平成29年度に大学スポーツの活性化に取り組む大学に対して、モデル事業の募集をしました。鹿屋体育大学は「地方型大学スポーツ振興モデルの構築―鹿屋体育大学と地域共同によるスポーツ・健康ブランドの創設」を提案し、採択され、日本版NCAA「KANOPYAモデル」として、平成29年内に「大学サッカー応援イベント」や「プロバスケット応援イベント」などを実施しました。平成30年はその2年目になるわけですが、地域との共同事業を積極的に企画提案し、この大隅の地に鹿屋スポーツ・健康ブランドを、スポーツ文化を育てるために取り組んでいきます。そして、そのモデル事例を全国に発信できることを目指したいと思います。

本学の研究プロジェクトとしても、従前は、TASS（競技力向上支援システム）とPALS（運動による健康・体力づくり）研究プロジェクトの2つでしたが、それらに加えCASE（スポーツイベントによる地域活性化）研究プロジェクトを昨年から立ち上げて取り組んでおります。

大学スポーツの発展のため、体育専門の大学として教育・研究・社会連携に積極的に取り組んで参ります。本年もご指導、ご

支援をどうぞよろしくお願いいたします。